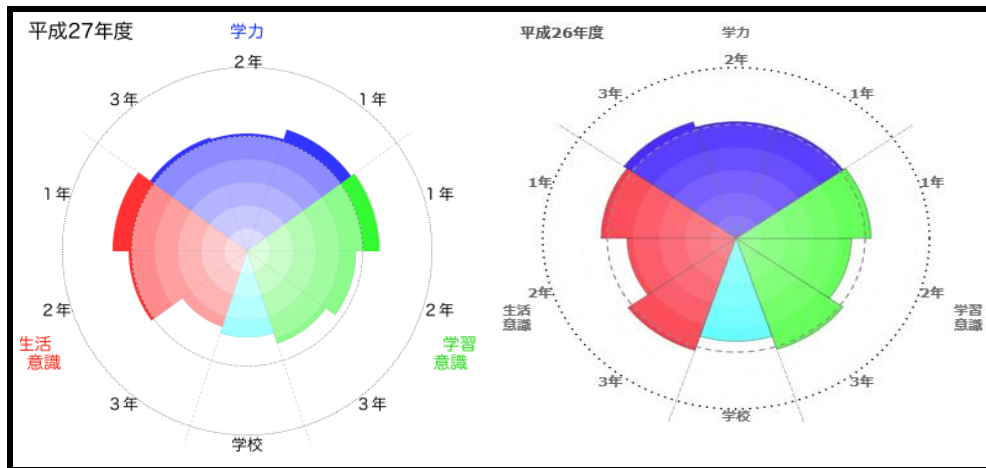


横浜市立 万騎が原中学校
平成28年度 学力向上アクションプラン

1 学力調査等からの実態把握

(1)「平成27年度 横浜市学力学習状況調査」の結果から



- 平成26年度と比較して
 - ・ 学力は経年変化から見てもやや高い数値を示している。
- 学校の取り組みとして
 - ・ 学校として組織的にPDCAを行いながら、より生徒の学力や思考力を高めるための具体的な取り組みや工夫には課題を残している。

○ 学力についての傾向

- ・ 学力的な傾向をみると、全般的には横浜市全体の平均をどの学年も上回っている。特に国語・社会・英語科においては、良いと思われる傾向が強い。社会科においては、活用する力についても、どの学年もかなり身に付いている傾向がみられる。
- ・ 理科において、やや活用の能力を含め学年によって若干学力についての向上が望まれる。

○ 学習意識についての傾向

- ・ 学習に対する意識については、全体的に課題となる部分がみられる。特に2年生(現3年生)では学習への意識の高まりが小さいことが気にかかるが、一方学力そのものについては良い傾向がある。与えられた課題については、学習するのだが、自ら進んで学習する大切さを気付かせる必要がある。

○ 生活意識についての傾向

- ・ 2年生(現3年生)の生活意識には特に課題とみられる点が見られる。時間的に余裕がなく、与えられたことをこなす傾向にある。進んで生活していく意欲を高める必要がある。
- ・ 各学年とも、まちの行事への参加や家の手伝いについては、意識が低い傾向にある。
- ・ 朝食については、どの学年についても毎日きちんと取っているという良い生活習慣がみられる。

(2) 学校の状況・地域の実態

- 在校生の約9割が学区内小学校からの進学。保護者は学校の取り組みに理解があり協力的である。
- 概ね安定した家庭環境で生活していることが、学力定着の背景要素と考えられる。ただ、学習面以外の点で家庭を含めて支援が必要な場合もあり、関係機関等と連携した体制づくりも課題である。
- 全般に落ち着いて授業に臨む習慣が身に付いているが、一部の生徒は基礎的な学力の補充が必要である。
- 職員構成では、経験年数が20年以上の教員も多く、教科指導・生徒指導ともに安定した状況であるが、経験年数の浅い世代が増加しているため、研修等により力量を向上させる準備を進めている。

2 今後の方向

(1) 最優先課題

- ア 学習面において、部活動や行事での達成感や自己肯定感がプラス作用として働いているため、部活動を奨励し、行事への取り組みを充実させたものにする。
- イ 学年間や関係諸機関との連携を取り、家庭への支援、連携を密にする。
- ウ 教職員の指導力向上を図るため研究・研修時間の確保をする。
- エ 思考力・判断力の向上のため、自ら学び、考える学習習慣の確立を図る

(2) 学力向上重点目標【中期学校経営方針(平成25年度～28年度)】

- ア 学習と行事・部活動などの取り組みを両立させ、メリハリのある学校生活を送れるようにするとともに試験前の部活停止期間等で補習を行い、生徒の基礎学力向上をさせます。
- イ 年間2回の授業研究週間、小中交流授業参観、授業参観等を充実させ、お互いに評価しあいながら、思考力を高める授業を実施します。
- ウ 受け身でなく、自ら学び、考えられる授業を実践し、思考を3ポイント以上向上します。